

氏名	垣 下 幹 夫
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2110 号
学位授与の日付	平成12年9月30日
学位授与の要件	医学研究科生理系解剖学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Mode of onset of ventricular fibrillation in patients with Brugada syndrome detected by implantable cardioverter defibrillator therapy (植込み型除細動器植込み後のBrugada症候群における心室細動の発生様式の検討)
論文審査委員	教授 氏家 良人 教授 佐野 俊二 教授 平川 方久

学位論文内容の要旨

特発性心室細動の中で、安静時心電図にて右脚ブロック、右側胸部誘導のST上昇で特徴づけられる一群が認められ、Brugada症候群として注目されている。しかし、Brugada症候群の心室細動発生の電気生理学的機序の詳細は不明である。そこで、本研究では、植込み型除細動器(ICD)植込み後のBrugada症候群における心室細動発生時のICD心内心電図の記録を解析し、心室細動発生の電気生理学的機序を検討した。心室細動発作直前に心室性期外収縮(PVC)の頻発を認め、同形のPVCから心室細動への移行を認めた。また、同一症例の異なった心室細動のエピソードにおいても、心室細動発作直前に同形のPVCが先行していた。Brugada症候群の心室細動の発生には特定のPVCがTriggerになっていることが示された。

論文審査結果の要旨

本研究は、心室細動による突然死を来すBrugada症候群について心室細動発生の電気生理学的機序を研究したものである。植込み型除細動器(ICD)植込み後のICD心内心電図の記録を解析し、心室細動発生の電気生理学的機序の一因として特定の心室性期外収縮(PVC)がTriggerになっていることを示した価値ある論文である。よって本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。